



藤沢東小だより

令和7年度 第2号

5月1日発行

遊びと学びは、意思決定の連続

学校における子供たちの活動は、「遊びと学び」が全てと言っても過言ではありません。子供たちは、「遊び」の中でその場に応じて意思決定しながら遊び方を広げ、友達と対話し、楽しさを深めていきます。また、「学び」の中で子供たち一人一人が課題に向き合い、学び方を意思決定し、課題解決に向けて挑戦しています。

つまり、子供たちは毎日の生活の中で多数の意思決定により、貴重な経験を積み重ねています。この経験が、社会人になるにあたり、重要な意思決定の根拠となるのです。藤沢東小学校では、多様な場面において、子供たちが自分で考えることができるよう指導しています。自分の意志で決めた行動がたとえ失敗したとしても、その失敗から多くのことを学ぶことができます。子供だからこそ、挑戦して失敗を繰り返しながら多くのことを得てほしいと思います。

私たち大人は、子供が「助けて、教えて、支えて」等【～て】がついた言葉となった時に、これまでの経験から助言することがよいかもしれません。子供の自尊心を尊重し、子供を応援できる心のゆとりをもちたいものです。

校長 吉野 正美

子供たちの行動が学校を変える！

学校の雰囲気をつくるのは、子供たちと教職員です。毎年、学校の様子は変化します。特に、最上級生である6年生が下級生のロールモデルとなるため、6年生が藤沢東小学校のリーダーとして、どのように行動するかで、学校全体の雰囲気が大きく変わってきます。令和7年度がスタートして、1年生を迎える会、避難訓練、一斉下校等、児童全体が共に行動する行事がありました。いずれの場面でも、6年生の行動が大変落ち着いており、真剣な表情で臨めたことが素晴らしく感心しました。今年度、50周年を迎える本校の未来を創る子供たちに期待したいと思いました。

◆◆ 藤沢中央公園に本校児童のポスターが掲示されます！！

藤沢中央公園での遊び方について、子供たち(6年生)と話し合いました。子供たちから公園に遊び方宣言ポスターを掲示しよう！との意見が出たので、入間市役所担当課に相談し、ポスターを掲示させていただくこととなりました。みんなが気持ちよく中央公園を利用できるといいです♪

中央公園ポスター



☆☆ 5月の主な行事 ☆☆

日	曜日	内 容
1	木	短縮5時間(掃除なし)
2	金	遠足1・2年
8	木	委員会
9	金	PTA 理事会
12	月	チャレンジ週間
13	火	県学力学習状況調査4年 交通安全教室5・6年
14	水	県学力学習状況調査6年 プール清掃5年
15	木	運動会全体練習
16	金	県学力学習状況調査5年 遠足1・2年予備日
20	火	運動会全体練習予備日
22	木	読み聞かせ(中)
23	金	前日準備作業(1～5年短縮4時間・6年短縮5時間)
24	土	第50回なかよし運動会
25	日	運動会予備日
26	月	振替休業日
27	火	講話集会 1年生通常日課開始
28	水	交通安全教室4年
29	木	新体力テスト2・5年 読み聞かせ(低)・クラブ
30	金	プール開き



5月生活目標

相手に伝わる声であいさつをしよう

今年11月、50周年記念行事を行います！

～子供実行委員(6年生)からのメッセージをお届けします～

☆去年からみんなと取り組んできたプロジェクトなので、東小に関わる方々全員の思い出に残るイベントにできるように頑張ります。(中野)

☆半年前からやっていたので、今年は前よりもっと頑張って先生方に任された期待にこたえながら、みんなが楽しかったと思えるような50周年記念にしたいです。(飯山)

☆私は、この東っ子の50周年をどの年よりも盛り上げていきたいと思います。この実行委員の始まりは昨年の12月から始まり何時間もかけていろいろな準備をしてきたので、最高の50周年にしたいです。(高橋)

☆50周年実行委員になって、大切なイベントを最高のイベントにしていいため、メンバーと協力していき頑張っていきたいと思います。(三浦)

☆東小の50周年として、大切な年をみんなで楽しく迎えられようように全力で取り組んでいきたいです。(佐藤)

※運動会：今年度は、春運動会です。(トイレ改修の為)
※主な種目：徒競走・技かけ(例：大玉ころがし等)・応援表現運動(民舞・ダンス等)は、秋の50周年行事 Week(11月)において、発表する予定です。改めて、お知らせいたします。ご理解ご協力よろしくお願いいたします。

4月26日 学校公開&教育講演会を行いました。

わが子が「学校に行けない」ときにできること ～不登校と向き合う親のためのヒント～

NPO 法人 マナビダネ 代表 土橋 秀子氏

全国的に増えている不登校、これは問題行動ではありません。不登校の間も、子供たちは内面で育っています。また、不登校の理由は、一人一人異なります。子供たちが何に困っているのか、分かろうとしてくれる大人がいるか、いないかでこれからの生き方が変わります。どうしても、お子様が学校へ行きたがらなくなると親のダメージは大きくなりますが、そういうときこそ、親が「つながら」という意識をもち、多様な人々と繋がることが大切なのです。「行かせたい、学校に戻したい！」と、強く思えば思うほど、お子様は強い刺激と感じ、抵抗感が強く働きます。誰にも責められず、本人の意思を尊重し、受け止めてくれる大人が一人で増えることが望まれます。【…学校と家庭との連携(コミュニケーション)が重要であることを再認識しました。】